

北海道苫前樽流し漁・ミスダコ FIP

概要

北海道の日本海北部に位置する苫前町は風力発電や一次産業が盛んな自給率の高い港町で人口の10%以上が漁業に従事しています。本プロジェクト地域のミスダコは通年漁獲可能ではあるものの、来遊時期と資源保護を考慮し、自主的に漁期を3月から6月、操業時間を午前5時～午後2時そして2.5キロ未満のサイズは放流するなど取り決めのもと操業しています。漁法は混獲も極めて少ない古き良き海に優しい、樽流し漁法です。

苫前の樽流し漁は比較的漁獲量も安定し、北留萌管内樽流しの約25%を占めている一方、ミスダコの漁獲量は2006年～2014年の間に約3分の1に減少、それに伴い漁業経営体数も減少しました。そこで本プロジェクトでは樽流し漁業の持続可能性を向上させ、同時に市場における認知度の向上そして競争力の強化そして最終的には地域の発展を目標に活動を始めました。

樽流し漁業は新規参入漁業者が入りやすい漁法としても認識されているため、漁業の持続可能性は雇用機会の創出、そして地域全体の発展へと繋がることが期待されます。また、稚内から小樽周辺に生息するミスダコは一つの系群と考えられるため、まずは苫前からプロジェクトを開始し、最終的には北留萌管内全体そして日本海側のミスダコ樽流し漁業全体を持続可能にしていくことを目指しています。4年の活動計画に基づき、漁獲情報の収集を行い対象漁協が主体となって資源評価が実施でき管理目標やそれに紐づく漁獲方策の策定と導入など稚内水産試験場などと協力しシステムを構築します。

FIPの目的

明確な漁獲方策があり、対象種の資源豊度に応じた対応を可能にする
漁獲方策及び資源評価に役立つ適切な情報を収集する
資源評価の高度化を通じて資源状況を明確にする
漁業による重要生態系要素への影響に関する良質な情報を収集する
MSC認証の原則1と2に該当する予防的な長期管理目標を設定する
適切な意思決定プロセスを策定する
漁業特有の管理制度を定期的に精査する

FIP のタイプ: 包括的

FIP のステージ: ステージ 3 :

ステージ 3 : FIP 活動の実施

プロジェクトの開始と完了:

2019 年 4 月 ~ 2023 年 3 月

次回の報告期限:

2019年10月

魚種

一般名: ミスダコ

学識名: *Enteroctopus dofleini*

漁法: 樽流し

漁獲場所

FAO 漁獲統計海区

61 (太平洋、北西)

排他的経済水域 (EEZ)

国: 日本

ボリューム

FIP による生産量: 67 mt

進捗一覧

漁業状況: 本 FIP は 28 中 28 の指数を考慮している

現在の状況:

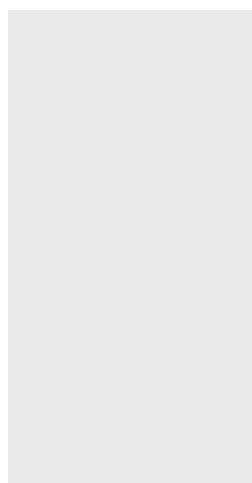


FIP 開始時の状況:

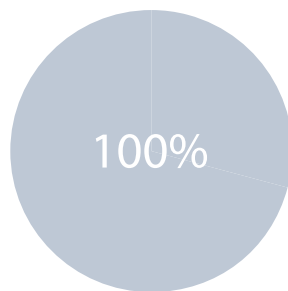


FIP の進捗:

進捗評価



完了したアクション



●完了 ●未完了

次回の報告期限:

2019 年 10 月

プロジェクトの
完了目標:

2023 年 3 月

FIP のリード

組織名:

株式会社シーフードレガシー (Seafood Legacy Co., Ltd.)

組織タイプ:

企業

連絡先:

村上春二 (shunji.murakami@seafoodlegacy.com)

ウェブサイト:

<https://seafoodlegacy.com/>

組織名:

オーシャンアウトカムズ (Ocean Outcomes)

組織タイプ:

NGO

連絡先:

ジョセリン・ドリュエガン (jocelyn@oceanoutcomes.org)

ウェブサイト:

<http://www.oceanoutcomes.org/>

FIP への参加者

組織名:

北るもい漁業協同組合 苫前支所・苫前いさり部会

組織名:

地方独立行政法人北海道立総合研究機構・水産研究本部・稚内水産試験場